

<p>事例項目</p>	<p>国民健康保険料における収納率の向上等の取り組みについて                  &lt;収納率向上に向けたコールセンターの設置、ジェネリック医薬品の利用普及・啓発&gt;</p>
<p>事例発生時期</p>	<p>平成20(2008)年度・平成21(2009)年度</p>
<p>担当課</p>	<p>市民生活部 保険年金課                  市民生活部 保険収納課</p>
<p>事例概要</p>	<p>①平成20(2008)年3月、市は、危機的な財政状況の最大の要因である国民健康保険事業の累積赤字の改善を目的とした「門真市国民健康保険事業特別会計収支改善計画」を策定した。                  ②保険料収入の確保策として、次のような取り組みを行った。                  ・滞納者に対する早期の面接対応による滞納防止                  ・滞納整理支援システムの導入による業務の効率化                  ・休日・夜間の納付相談や訪問指導の実施                  ・平成21(2009)年1月から、コンビニエンスストアにおいて保険料納付を可能にするなど、被保険者の利便性の向上及び納付機会の拡充を図った。                  ・平成22(2010)年1月から、保険料の納付などを電話で案内するコールセンターを設置し、保険料納付の促進に努めた。                  ③保険料支出の抑制策として、レセプト(※1)の点検調査時に、更なる不正請求発見の充実・強化を図った。                  ④これらの取り組みにより、全国的に保険料の収納率が低下している中、平成20(2008)年度において、府内で本市を含め、2市のみが保険料の収納率の向上を果たすことができた。(平成19(2007)年度79.0%、平成20(2008)年度80.1%)                  ⑤平成21(2009)年度においては、保険料の本人負担の軽減と医療費の抑制を目的として、府内初の「ジェネリック医薬品利用促進通知書」を被保険者に発送し、ジェネリック医薬品(※2)利用の普及・啓発に努めた。                  ⑥広報かどま平成21(2009)年12月号に記事を掲載し、積極的にジェネリック医薬品の利用普及・啓発に努めた。【資料(3)－2－1】                  ⑦これらの積極的な取り組みの推進により、国・府から「国民健康保険事業の適正運営に積極的に取り組んでいる」団体であると認められ、平成20(2008)年度・平成21(2009)年度、「国民健康保険事業特別調整交付金」の交付を受けることができた。                  ※1 レセプト…医療機関が保険者に請求する医療費の明細書                  ※2 ジェネリック医薬品(後発医薬品)…先発医薬品の特許が切れた後、同じ主成分と効能で別会社が製造した薬。開発費がかからないため、先発医薬品より安価</p>
<p>事業効果など</p>	<p>○特別調整交付金交付額                  平成20(2008)年度 60,000,000円                  平成21(2009)年度 94,000,000円                  ○収納率 平成19(2007)年度79.0%                  平成20(2008)年度80.1%</p>
<p>添付資料</p>	<p>【資料(3)－2－1】…広報かどま平成21(2009)年12月号</p>